

# 古文ドリル：完了の助動詞「つ」「ぬ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「つ」と「ぬ」の違い

完了の助動詞「つ」と「ぬ」、ともに連用形接続で「～してしまった／～した」と訳しますが、**ニュアンスと接続する動詞**が違います。

助動詞	主な接続	ニュアンス
つ	他動詞（意志的な動作）	動作主の意志的な完了
ぬ	自動詞（自然な変化）	自然な変化・完了

例： - 「書き**つ**」：（自分の意志で）書いた／書いてしまった - 「散り**ぬ**」：（自然に）散ってしまった

## 活用

「つ」

活用形	形
未然	て
連用	て
終止	つ
連体	つる
已然	つれ
命令	てよ

「ぬ」

活用形	形
未然	な
連用	に
終止	ぬ
連体	ぬる
已然	ぬれ
命令	ね

## 他用法（重要）

「つ」「ぬ」には完了以外の用法もあります：

用法	例	訳
完了	書き <b>つ</b>	書いた
強意（確述）	来たり <b>つる</b> ものを	確かに来た
並列	行き <b>つ</b> 戻り <b>つ</b>	行ったり戻ったり

## 識別の鉄則

- 下に推量・意志（む・べし・じ等） → 強意（確述）「きっと～」
- 「つ／ぬ」の連用形+反復語 → 並列「～したり～したり」
- それ以外 → 完了「～してしまった」

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。  
こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「つ／ぬ」の後ろを見るだけで意味が即決

「つ／ぬ」が出てきたら **直後** に視線を飛ばす。 - 後ろが **む／べし／じ／らむ** → **強意（確述）** 「きつと～」「必ず～」 - 後ろが **句点・別動作・体言** → **完了** 「～してしまった」 - 「～つ～つ」「～ぬ～ぬ」と繰り返し → **並列** 「～したり～したり」

「ぬべし」「てむ」「なむ」（連用+なむ）を見たら反射で「強意」と答える。

### コツ② 「ぬ」の正体は直前で決まる

「ぬ」を見たら **直前の活用形** を即チェック。 - 連用形+ぬ → **完了の助動詞** 「ぬ」（散りぬ=散ってしまった） - 未然形+ぬ → **打消「ず」の連体形** 「ぬ」（散らぬ=散らない）

「四段・上下二段+ぬ」で見分けにくい時は、**訳して意味が通る方** を選ぶ。

### コツ③ 「つ」と「ぬ」の使い分けは自他で当たる

- **つ**：他動詞・意志的（書き**つ**／詠み**つ**／殺し**つ**）
- **ぬ**：自動詞・自然変化（散り**ぬ**／消え**ぬ**／枯れ**ぬ**）

迷ったら「自分の意志でやった？それとも勝手にそうなった？」で判別。

### コツ④ 「てむ／なむ／つべし／ぬべし」は強意のセットフレーズ

入試頻出の **完成形** として暗記してしまう。 - 「**てむ**」「**なむ**（連用+）」 → 強意+意志・推量 - 「**つべし**」「**ぬべし**」 → 強意+当然・推量（「きつと～だろう」） - 「**てまし**」「**なまし**」 → 強意+反実仮想

この形を見たら、つ／ぬは強意だと即答できる。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「つ／ぬ」の **直後** を見る（む／べし／じが来ていないか）
2. 推量・意志系が来ていたら → 強意（確述）で確定
3. 「ぬ」なら **直前** の活用形を確認（未然なら打消「ず」）
4. 並列の繰り返しパターン（～つ～つ）なら並列で確定
5. それ以外は完了

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 「ぬべし」「てむ」を完了と誤答する（実は強意）
- 「散ら**ぬ**花」を完了と勘違い（未然+ぬ=打消連体形）
- 「死な**む**」を完了「ぬ」未然+推量「む」と誤判定（+変動詞「死ぬ」未然+推量の可能性）

## 採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編

Q1. 「つ」「ぬ」の用法を答えよ。

物書きつ。

Q2. 用法を答えよ。

花散りぬ。

Q3. 用法を答えよ。

行きつ戻りつ。

Q4. 用法を答えよ。

行きぬべし。

Q5. 用法を答えよ。

知りつ。

Q6. 用法を答えよ。

月出でぬ。

Q7. 用法を答えよ。

思ひつ。

Q8. 用法を答えよ。

春過ぎぬ。

Q9. 用法を答えよ。

言ひつべし。

Q10. 用法を答えよ。

鳥の鳴きぬ。

Q11. 用法を答えよ。

来（き）ぬる人。

Q12. 用法を答えよ。

行きつる所。

Q13. 用法を答えよ。

雨降りぬべし。

Q14. 用法を答えよ。

嵐山に登りつ。

Q15. 用法を答えよ。

春来たりぬ。

Q16. 用法を答えよ。

詠みつれば、心晴れぬ。

Q17. 用法を答えよ。

仏に祈りぬ。

Q18. 用法を答えよ。

早く来(き)てよ。

Q19. 用法を答えよ。

一人立ちぬ。

Q20. 用法を答えよ。

月見つべし。

基礎編 / 20

## 【第2部】 標準編

Q21. 用法を答えよ。

いそぎ立ちぬべき所。

Q22. 用法を答えよ。

早く行かで、なほ立ちつ。

Q23. 用法を答えよ。

風吹きぬべし。

Q24. 用法を答えよ。

詠みもつ、歌ひもつ。

Q25. 用法を答えよ。

春の野に若菜摘みつ。

Q26. 用法を答えよ。

鶯さへづりぬ。

Q27. 用法を答えよ。

心通はしつ。

Q28. 用法を答えよ。

仏に祈りぬれば、安らぎぬ。

Q29. 用法を答えよ。

知りつべし、と思ふ。

Q30. 用法を答えよ。

道に迷ひぬ。

Q31. 用法を答えよ。

仰せつべし。

Q32. 用法を答えよ。

物言ひぬ。

Q33. 用法を答えよ。

来つる方角。

Q34. 用法を答えよ。

言ひつべきこと。

Q35. 用法を答えよ。

古典を学びぬべき時なり。

Q36. 用法を答えよ。

過ぎ行きぬる春。

Q37. 用法を答えよ。

月出でつ。

Q38. 用法を答えよ。

雪降りぬべき空。

Q39. 用法を答えよ。

言ひつれば、人皆笑ふ。

Q40. 用法を答えよ。

物思ひぬ。

Q41. 用法を答えよ。

鳥や鳴きつらむ。

Q42. 用法を答えよ。

知りぬらむ。

Q43. 用法を答えよ。

嵐山の紅葉散りつるを、嘆く。

Q44. 用法を答えよ。

物食はずして寝ぬ。

Q45. 用法を答えよ。

言ひてよ。

Q46. 用法を答えよ。

思ひなばや。

Q47. 用法を答えよ。

行きつ戻りつ思ひ嘆く。

Q48. 用法を答えよ。

春雨降りぬ。

Q49. 用法を答えよ。

我れも詠みつべし。

Q50. 用法を答えよ。

物書きぬ。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編

Q51. 用法を答えよ。

我れ歌詠みつるものを、人皆冷たし。

Q52. 用法を答えよ。

鶯さへづりぬれば、春来たる。

Q53. 用法を答えよ。

物言ひつべきを、口を閉づ。

Q54. 用法を答えよ。

鳥や鳴きぬらむ。

Q55. 用法を答えよ。

月出でつらむ。

Q56. 用法を答えよ。

春過ぎぬべし。

Q57. 用法を答えよ。

我れも仕うまつりつべし。

Q58. 用法を答えよ。

心通ひぬべき人。

Q59. 用法を答えよ。

知りつべき時。

Q60. 用法を答えよ。

いざ参りぬ。

Q61. 用法を答えよ。

風吹き止みつ。

Q62. 用法を答えよ。

雪深く積もりぬれば、道見えず。

Q63. 用法を答えよ。

古典を学びつ。

Q64. 用法を答えよ。

物思ひつらむ人。

Q65. 用法を答えよ。

月隠れぬらし。

Q66. 用法を答えよ。

言ひてよ、と言ひ給ふ。

Q67. 用法を答えよ。

春過ぎて夏来たりぬ。

Q68. 用法を答えよ。

古典を究めつべき才。

Q69. 用法を答えよ。

心ある人にあらずして、なほ嘆かれぬ。

Q70. 用法を答えよ。

物思ひつつ、夜更けゆく。

Q71. 用法を答えよ。

雪降りつ消えつ。

Q72. 用法を答えよ。

古き世にありぬべき人。

Q73. 用法を答えよ。

物言ひつれば、心軽し。

Q74. 用法を答えよ。

雪深く降りぬれば、出でられず。

Q75. 用法を答えよ。

知りつれば、なほ嘆く。

Q76. 用法を答えよ。

風吹きぬらむ夜。

Q77. 用法を答えよ。

月清く照りつらむ里。

Q78. 用法を答えよ。

春雨降りぬべき時。

Q79. 用法を答えよ。

仕うまつりつべき所。

Q80. 用法を答えよ。

鳥や鳴きつらむ。

## 【第4部】 入試レベル

---

---

Q81. 用法を答えよ。

春過ぎて夏来たりぬらし白妙の衣干すてふ天の香具山。

---

---

Q82. 用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと問ひつ。

---

---

Q83. 用法を答えよ。

京にて生まれたりし女子、国にてにはかに失せにしかば、…

---

---

Q84. 用法を答えよ。

雪のいと高う降りつるを、例ならず御格子参りて、…

---

---

Q85. 用法を答えよ。

物のあはれを知る人は、これを尊しと思ひぬべし。

---

---

Q86. 用法を答えよ。

我れも詠みつべきを、いまだ詠まず。

---

---

Q87. 用法を答えよ。

古き友、今宵来ぬらむ。

Q88. 用法を答えよ。

春の野に若菜摘みつるは、いまだ春浅し。

Q89. 用法を答えよ。

心ある人にあらぬは、これを尊しと思はずして、ただ過ぎぬ。

Q90. 用法を答えよ。

仏前に祈りつれば、心安らぎぬ。

Q91. 用法を答えよ。

我れ古典を究めつるを、人皆敬する。

Q92. 用法を答えよ。

春過ぎぬべき時節。

Q93. 用法を答えよ。

雨降りつやみつ。

Q94. 用法を答えよ。

月隠れぬべき夜半。

Q95. 用法を答えよ。

言ひつべきこと、なほ言はず。

Q96. 用法を答えよ。

風吹きぬらし。

Q97. 用法を答えよ。

古き世にありける人々。

Q98. 用法を答えよ。

物思ひぬべき時節なり。

Q99. 用法を答えよ。

行く川のながれは絶えず、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、つひに消えぬ。

合計 / 100

## あとかき

「つ」「ぬ」の識別の核心： - **連用形** + 「つ／ぬ」 + **推量** (べし・らむ等) → 強意 (確述) 「きつと～」 - 「～つ、～つ」の反復 → 並列「～したり～したり」 - **それ以外** → 完了「～した／～してしまった」

「つ」は他動詞・意志的、「ぬ」は自動詞・自然変化。このニュアンスの違いも押さえること。

---

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

---

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosenensei.com>